

「小川内」便り 第18号 平成24年7月

特定非営利活動法人 小川内Oプロジェクト (理事長 渡辺眞作)



事務所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小川内4579-3
安佐小川内集会所内

TEL&FAX 082-835-0831

会員の皆さまお元気ですか。いつもご支援いただきありがとうございます。
今、春に植えた小さな苗が大きく成長、自然の力、稲の力強い生命力を感じます。
無事、秋の収穫ができることを願っています。
米と言う字は分解すると八十八と教わり、ごはんになるまでには多くの手間がかかります。
農業を取り巻く環境は内外とも厳しい状況にありますが、米は日本の主食、命の元。
今一度農業の重要性について考えてみましょう。小川内の農業を見れば、その課題が明確になり、解決のヒントに気づくかも知れません。

内容

- 第1期通常総会開催 (P1)
- ハウス「食と農と環境教室」と白島商店会の草取り (P2)
- 小川内弥太郎について (P2~3)
- 農村体験ツーリズム・・・歴史探訪 (P3)
- 小川内情報 (P3)
- ボランティア募集 (P4)
- 編集後記 (P4)

第1期通常総会開催 (6月17日)

会員数81 出席者68名 票決委任者37名
法人設立1年経過、第1期通常総会が行われ、事業報告、収支決算報告及び第2期事業計画案、収支予算案が上程され、何れも原案通り承認、可決されました。
又、先に実施した住民アンケートについて概略説明。良くやっていると評価がある一方、活動が活性化につながっているのか、若ものを呼び込む(呼び戻す)ことを考えるべきだ、等のご意見があり、アンケートを分析、こうした問題に理事会で協議し、課題解決に取り組んで参ります。皆さまのご理解、ご協力をお願い致します。(写真は総会風景)



ハウス食と農と環境教室（2年目）

2年目を迎えた首記教室、今年も7月7日、親子34人が参加して草取りや野菜の収穫、調理、紙芝居、魚釣り等の体験を通じて食と農と環境の大切さを学びました。参加した子供が生き物に関心を持ち、図鑑を見るようになった、等の感想が寄せられました。（写真は小河内川の水質を実験する子どもたち）



白鳥商店会酒米作り農業体験（2年目）

昨年に続き今年も54人参加して草取りや野菜の収穫、調理、紙芝居、魚釣り等の体験をしました。参加者から空気が美味しい、川の音に癒された、など小河内に住んでいると何も感じていないことに、小河内の素晴らしい宝があることを教えてくれました。

（写真はスタッフに教えられ草取りをする親子）



小河内と小河内弥太郎について

小河内村現勢誌によれば、16世紀、小河内を統治した殿之城主小河内弥太郎と言う人物が小河内の歴史に大きくかかわっています。弥太郎は、横川合戦（熊谷VS武田）で武田に加勢した7人の小河内氏は全員討ち死に、その跡目として武田氏から弥太郎（6歳）を城主として貰い受けられ、18歳まで小河内で過ごします。兄（武田光和）の居城（銀山城）より高い城（牛頭山城）に住んでは申し別けないと、殿之城に移ります。若い弥太郎は近隣の城主に謀られ、会談中に城が炎上、18歳で自害したと、伝えられています。居城であった「牛頭山城」「殿之城跡」、自害したと言われる「西福寺」、刀を二振り奉納を命じた「養山八幡神社」、「首塚」、「墓」、「殿之城霊神社」など多くの史跡があります。この物語を小河内在住の佐々木雅子さんが紙芝居「小河内弥太郎」に創作、イベント等で紙芝居は好評を博しています。約500年経た今日も毎年4月第1日曜日に弥太郎の慰霊祭が執り行われ、氏子は弥太郎を偲びます。尚、当法人が開発した着火材の商品名は小河内弥太郎に因み「弥太郎君」と命名、小河内の再生の願いを込めています。写真は小河内弥太郎を祀ってある殿之城霊神社（上）とお墓、首塚（下）



ツーリズム歴史探訪・・・小河内弥太郎を訪ねて

7月21日、歴史探訪「小河内弥太郎を訪ねて」を行い、地区内外から30名の参加者があった。小河内弥太郎縁の史跡を中川徹也さんや中川俊雄さんがガイド、佐々木雅子さんの紙芝居「小河内弥太郎」を見て、勉強会をした。



殿之城霊神社でガイドの説明を聞く参加者



養山八幡神社に集まった参加者

小河内情報

盆踊りに来てね

今年も恒例の小河内納涼祭（小河内青年団主催）が8月15日夕方7時より、旧くりが丘保育園跡広場で行われます。ビール早飲み競争、ビンゴで豪華賞品を当てよう、等楽しい内容が一杯。帰郷されている皆さんも盆踊りに参加して小河内の夏の夜のひと時を楽しんで下さい。旧友と再会！ やっぱり小河内はええのう。

最近、小河内で撮影した写真です



懐かしい脱穀機（7月、ハウス教室にて）
（昭和30年代頃までは足で踏み脱穀していた）



もみじの枝にぶら下がるモリアオカエルの卵塊
（6月末、元沢田集落にて）

ボランティア募集

市内北端の小さな小河内地区、豊かな自然や歴史、文化など農村の香りを求めて多くの都市住民が訪れる。住民の高齢化、減少で活力が低下している小河内を元気に再生しようと、NPO法人を立ち上げ活動しています。このまちづくりを応援していただくボランティアを募集しています。

(1) イベントやツーリズムの企画や運営

農業体験・・・ハウス「食と農と環境教室・広島」と白島商店会酒米づくり
農村体験ツーリズム・・・歴史探訪、柿もぎ、ゆずもぎ、漬物講習会、炭焼き、
孟宗竹切りとその加工、登山等を行っています。

特にイベント前の準備や当日運営のスタッフとしてお手伝いいただけるボランティアを募集します。

(2) 広報紙「小河内便り」の編集についてのアドバイス

会員や都市住民（イベント参加者など）、又地区住民に当NPO法人の活動状況や小河内情報等を発信しています。広報紙の戦略や編集についてアドバイスをいただけるボランティアを募集します。

(3) お問い合わせ先

折り返し連絡いたしますのでメッセージ等お願いします。

特定非営利活動法人 小河内Oプロジェクト

〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3 小河内集会所内

tel&fax 082-835-0831

<http://ogauchi.web.fc2.com/>

nkneij@yahoo.co.jp（担当：中野英治）

携帯 090-6847-3284

ogauchi-p@docomo.ne.jp

編集後記

ハウスや白島商店会の農業体験から、食（農業）の大切さは勿論、自然のありがたさ、田舎暮らしの良さ、コミュニティの大切さなどを学び、「小河内はいいところだ」という声を、毎回のアンケートに寄せられます。「灯台もと暗し」でしょうか。私たちは、いつも同じ野山や川を見て、同じ空気を吸い、同じ人と接していると、これが当たり前と錯覚し、足元にある宝の存在、ありがたさに気づかないものです。都市住民との交流で小河内にはお金で買えない、大きな宝があることを気付かせてもらいました。この自覚が、誇り、郷土愛に繋がるベースになると思います。

大切なことは「心を過疎」にしてはいけないことでしょう。

会員、都市住民の皆様もご理解とご支援をお願い致します。（S）